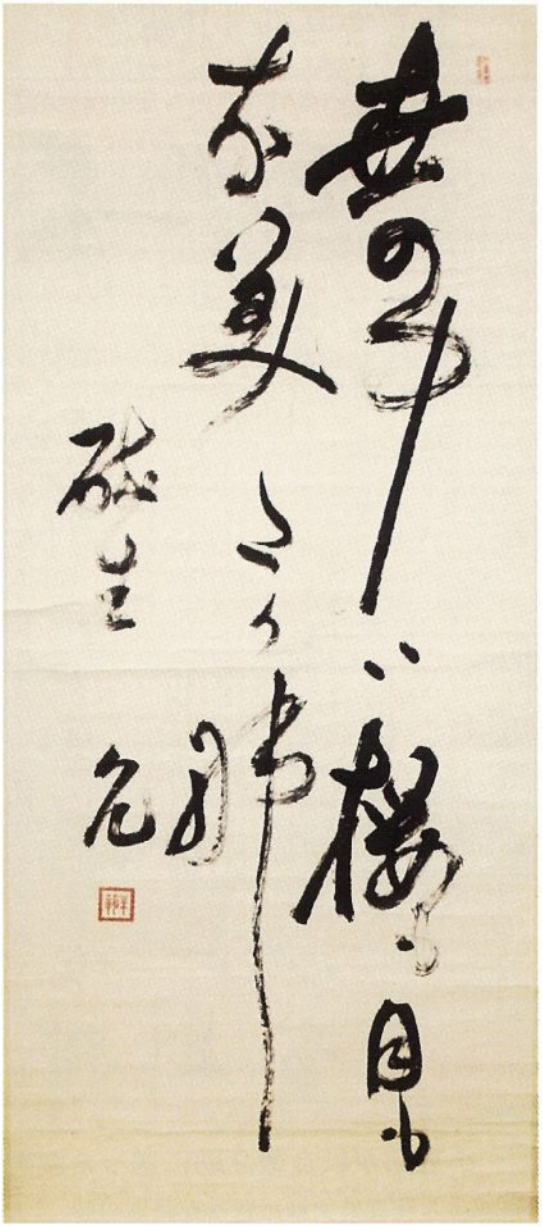
萩博物館企画展

討幕エネルギーの系譜

展　示　目　録



木戸孝允俳句書

「世の中は桜も月もなみだかな」という俳句の書。これを書いた時期は不明だが、俳句そのものは、明治元年 12 月 21 日に東京で、孝允が初めて作ったものという。豪放な筆致で、落款には「酔生允」と記す（春風文庫蔵）

会期　平成 22 年 4 月 17 日（土）～6 月 20 日（日）

HagiHakubutukan
萩博物館

プロローグ

江戸時代を通じ、長州（萩）藩主として周防・長門に君臨した毛利家の遠い先祖は、平城天皇の第一皇子・阿保親王（792～842）とされる。阿保親王の御落胤が大江氏を称し、その末裔である大江広元の 4 男季光が毛利家を興す。阿保親王は一品親王の称号を得ていた。皇室とのつながりを誇りとする毛利家は、一品の文字をデザイン化した家紋「一文字三星紋」を用いる。

慶長 5 年（1600）の関ヶ原合戦で徳川家康に敗れた毛利家は、中国地方 8 カ国の領土を 2 カ国に減らされ、本拠地の広島を追われ、日本海に面した萩に封じ込められてしまう。長州藩（36 万 9 千石）の誕生だ。しかし江戸時代に入っても毛利家は、天皇家とのつながりを保ち続ける。それから二百数十年、外圧により徳川幕府の屋台骨が揺らぎ始めると、毛利家の中で、本来日本を統治するのは天皇であり、天皇の下で団結して外圧をはねつけて、独立を守ろうとする考えが強まってきた。

資料名	所蔵先
毛利輝元肖像画　吉田初三郎画	萩博物館
毛利元就御座備図	萩博物館
毛利家の荷旗	萩博物館

１、松陰の時代

アメリカの黒船来航により、二百年の永きにわたり鎖国を続けてきた日本は国際社会の中へ放り込まれた。ところが孝明天皇は開国に反対し、公武間に大きな亀裂が生じる。長州藩の兵学者だった吉田松陰は、いかにして外圧を取り除き、日本の独立を維持するかを懸命になって考える。そして幕府を諫め、天皇を頂点とした新しい日本の姿を模索してゆく。しかし松陰は過激な言動が災いして、幕府の行った安政の大獄に連座し処刑された。

資料名	所蔵先
吉田松陰坐像	萩博物館
吉田松陰「大華山県先生に与えて講孟箚記の評を乞う」	萩博物館
吉田松陰漢詩草稿	萩博物館
玉木文之進書	萩博物館
毛利慶親和歌書	萩博物館
吉田松陰書簡　宮部鼎蔵あて　安政元年 4，5 月頃	萩博物館
吉田松陰書簡　杉梅太郎往復　安政元年 3 月 5 日	萩博物館
吉田松陰書簡　白井小助あて　安政元年 4 月 19 日（複製）	萩博物館
孫子評註	萩博物館
孫子評註（刊本）	萩博物館

２、玄瑞の時代

動乱が乗じ、中央政局に躍り出た長州藩は、開国を認めた上で公武間の周旋を始める。ところが久坂玄瑞ら松陰門下生が激しく反発し、藩論は一転して天皇の方針でもある攘夷に定まった。そして関門海峡を通航する外国船を砲撃するなど、過激な攘夷運動を展開して幕府を追い詰め、天皇権威を高めてゆく。ところが天皇がこれを危険視したため政変が起こり、長州藩などの攘夷激派は勢力を失う。巻き返しのため禁門の変を起こしたが敗走し、玄瑞も自刃した。

資料名	所蔵先
杉百合之助・梅太郎往復書簡　文久３年５月28日	萩博物館
周布政之助詩書	萩博物館
久坂玄瑞書簡　杉梅太郎あて　文久元年２月26日	萩博物館
長井雅楽肖像	萩博物館
廻瀾条議　久坂玄瑞著　他筆写本	萩博物館
坂本龍馬肖像　公文菊遷画	萩博物館
七卿落ちの図　沢宣嘉画	萩博物館
中山忠光書簡　久坂玄瑞あて　文久３年８月13日	萩博物館
新幟大和錦	春風文庫
攘夷戦争の図	萩博物館
吉田栄太郎の日記	萩博物館
吉田栄太郎（稔麿）書簡　母あて　文久３年７月６日	萩本陣
吉田稔麿所用の紙入れ	萩本陣
久坂玄瑞日記	萩本陣
高杉晋作書簡　杉梅太郎あて　元治元年７月下旬	萩博物館
久坂玄瑞歌書短冊・寺島忠三郎戯歌合装	春風文庫
久坂玄瑞を描く錦絵	春風文庫
須子小五郎肖像画	個人

３、晋作の時代

天皇は長州藩を朝敵とし、幕府に征伐を命じた。これに対し長州藩は恭順謝罪し、不戦解兵となる。松陰が点し、玄瑞が燃やした変革の炎は消えようとしていた。その時、松陰門下で玄瑞と並び竜虎と称えられた高杉晋作が決起。内戦の末、長州藩の方針は、表は朝廷と幕府に対し恭順、裏では実力を蓄えるという待敵（武備恭順）で固まる。そして対立していた薩摩藩とも密かに手を結び、外国から銃や軍艦を買い込み、復権の機をうかがった。

資料名	所蔵先
国泰寺三家老首実検瓦版	萩博物館
福原越後所用の甲	萩博物館
中村九郎書簡　文久 3 年	春風文庫
楢崎弥八郎詩書	萩博物館
宍戸九郎兵衛短冊	萩博物館
前田孫右衛門詩書	萩博物館
渡辺家(内蔵太)旧蔵書	萩博物館
高杉晋作詩書	春風文庫
高杉晋作書簡　西島青浦あて　慶応 2 年 12 月 22 日	春風文庫
高杉晋作詩書扇面	春風文庫
桜山歌集	春風文庫
照顔録	萩博物館
奇兵隊袖印（石田五郎遺品）	個人
観光録	個人

４、孝允の時代

再び攻め寄せた長州征伐軍を、長州藩は官民一丸となり撃退。まもなく孝明天皇が崩御し、時代は新局面を迎える。将軍徳川慶喜は大政奉還を行い、武力討幕を回避して公議政体の流れが生まれた。しかし長州藩の木戸孝允など武力討幕派は、徳川政権の可能性を根絶せねば近代日本誕生は無いと考え、新天皇を抱きこみ王政復古を実現して慶喜を政権から排除した。復権した長州藩は薩摩藩などと共に、戊辰戦争で旧幕府勢力を壊滅させてゆく。

資料名	所蔵先
楫取素彦蘭画　慶応 2 年 5 月 5 日	春風文庫
宍戸備後助書簡　木戸孝允あて　慶応 2 年 1 月 28 日	春風文庫
長防臣民合議書	萩博物館
木戸孝允俳句書	春風文庫
藤村英二郎肖像画	藤村家蔵
鳥羽伏見の戦い錦絵	萩博物館
討幕の密勅　慶応 3 年 10 月 14 日　（複製）	萩博物館
討幕の密勅請書　慶応 3 年 10 月　（複製）	萩博物館
木戸孝允書簡　坂本龍馬あて　慶応 3 年 9 月 4 日　（複製）	萩博物館
楢崎頼三所用の菊章旗	萩博物館
都風流とことんやれ節	萩博物館
版籍奉還を許可する文書　（複製）	萩博物館
白井小助詩書	春風文庫
木戸孝允書簡　名和道一あて　明治 2 年 7 月 28 日	春風文庫